

秋のオンラインアゴラ



チャレンジ！オープンガバナンス2023
([COG2023](#))

2023年11月19日13時開始

COG2023秋のオンラインアゴラプログラム

<https://ogn.or.jp/cog/380/>

- **開会**: 13:00～13:05
- ※ 本日のプログラム 総合司会・ラジレジオン
- (1)開会挨拶:COG審査副委員長 坂井修一
- (2)審査委員有志紹介 川島、神原、庄司、渡辺、(宇野)
- (3)歓迎挨拶:LINE株式会社
- **1. COG2022受賞チームからのメッセージ**: 13:05～14:05
- ～昨年秋・STEP2の応募に向けての検討段階での思い出
- ～今の活動状況と継続のコツ
- (モデレーター)多田功氏(COG2021総合賞受賞加古川市元職員)
- 受賞者5チーム発表 25分
- 自由討議 審査委員有志らも参加 35分

- **2. 地域アゴラパネルディスカッション**14:05～15:00
- 地域アゴラの意義と実践デモクラシー—奥村
- 意見交換:地域アゴラが実践デモクラシーを支える
- パネラー:審査委員有志、COG参加市民・自治体有志
- (モデレーター)奥村裕一(COG事務局長)
- **3. 関連する話題 30分(意見交換各5分あり)**
- 「Decidim」の活用実態報告 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 輿石彩花氏 15分
- 哲学カフェの未来 藤田友子氏(COG2016 アイデア賞・ハーバード賞受賞チーム「宮前子育て応援だん」リーダー) 15分
- 15時30分閉会

オンラインでの視聴者質疑応答について

今回試しに

Zoom Webinarの①「**挙手**」機能を利用します。
挙手と同時に②「**Q&A**」機能で所属とお名前
をご記入ください。

司会（第二部）が指示するまでお待ちください。



挙手機能

QA機能

時間の制約上、すべての挙手に対応しきれない可能性がある点、ご了承ください。

坂井修一 審査副委員長開会挨拶

東京大学副学長・附属図書館長 大学院情報理工学系研究科教授

本日参加の審査委員など有志紹介

審査副委員長

坂井 修一（東京大学副学長・附属図書館長 大学院情報理工学系研究科教授）

審査委員

川島 宏一（筑波大学システム情報系社会工学域教授）

神原 咲子（神戸市看護大学看護学部教授）

庄司 昌彦（武蔵大学社会学部メディア社会学科教授）
教授）

渡辺 美智子（立正大学データサイエンス学部教授）

（宇野 重規（東京大学社会科学研究所教授）

COG事務局

奥村 裕一（社）OGN代表理事 元東京大学公共政策大学院客員教授

澁谷遊野（東京大学空間情報科学研究センター准教授）



協賛団体歓迎挨拶

LINEヤフー株式会社 江口清貴



COG2023のプロセス

STEP1 (いまここ)

自治体からの
課題募集
(2023年6月～8月)

COGによる協働の始まり
市民目線で課題を発掘し
関連の公開データと共に
地域の課題をエントリー

STEP2

市民／学生の
解決アイデア募集
(2023年9月～12月)

> アイデアに磨きをかける3D
データで事実を知り
デザインで人を知り
デジタルを活用する

STEP3

最終公開審査と
改善アドバイス
(2024年1月～4月)

> アイデアの実現目指して
小さい第一歩を踏み出す
持続と発展を視野に入れ
その基礎をかためる

参加自治体実績



1 札幌市	12 春日部市	23 中野区	34 越前市	45 草津市	56 神戸市長田区	67 高松市
2 室蘭市	13 深谷市	24 多摩市	35 静岡市	46 京都市	57 姫路市(※)	68 松山市
3 北海道森町	14 松戸市	25 神奈川県	36 三島市	47 大阪府	58 西宮市	69 八幡浜市
4 八戸市	15 茂原市	26 横浜市	37 掛川市	48 大阪市	59 豊岡市	70 愛媛県久万高原町
5 仙台市	16 流山市	27 横浜市金沢区	38 裾野市	49 大阪市東淀川区	60 加古川市	71 高知県土佐町
6 鶴岡市	17 千代田区	28 川崎市宮前区	39 菊川市	50 大阪市阿倍野区	61 宝塚市	72 北九州市
7 南陽市	18 港区	29 鎌倉市	40 牧之原市	51 大阪市東住吉区	62 高砂市	73 福岡市
8 会津若松市	19 文京区	30 新潟市	41 豊橋市	52 大阪市住之江区	63 三田市	74 小城市
9 水戸市	20 品川区	31 石川県	42 大津市	53 豊中市	64 生駒市	75 玉名市
10 太田市	21 目黒区	32 金沢市	43 長浜市	54 枚方市	65 倉敷市	76 日南市
11 熊谷市	22 世田谷区	33 鯖江市	44 近江八幡市	55 神戸市	66 宇部市	77 那覇市

備考:自治体コード順

(※) 以前姫路市・福崎町・市川町・神河町・朝来市・養父市の地域連合あり

1. COG2022の受賞チームからのメッセージ

13:05～14:05 1時間

- ・ <アイデアつくりの経験談とこれから>
- ・ ～昨年秋・STEP2の応募に向けての検討段階での思い出を存分に語る
- ・ ～今の活動状況と継続のコツ
- ・ (モデレーター) 多田功氏 (COG2021総合賞受賞自治体 加古川市元職員)

チーム名	COG2022受賞内容	時間
立教大学 立教サービスラーニング(熊谷:子ども食堂市内展開)	総合賞	5分
帰ってきたTOYOOKA-FANS(豊岡:自然図書館)	アイデア賞	5分
新潟法律大学校Gゼミ 探究-Program Class(新潟:下水道理解増進)	連携体制賞	5分
宇部商業高等学校 商業研究部(ときわ公園観光増進策)	ハーバード賞	5分
ラジレジオン(千代田区:各地を校内放送でつなぐ)	学生賞	5分
自由討議(審査委員、登壇者、事務局ら)		35分

以下各発表チームによる発表と対話

- スライド投影は各発表者が画面共有
- タイマーを画面に出します（事務局サポーター）



チーム名：立教大学 立教サービスラーニング 『SOCIAL & PUBLIC 自治体名：熊谷市

・総合賞

・発表 13:05～13:10(5分)

子ども食堂

全国初！地域内の全小学校区での
子ども食堂開催を実現

解決したい課題

熊谷市の子どもの居場所の不足と、子どもの4つ貧困問題（経済的、機会、関係性、自己肯定感の貧困）の解決と、そこから発展する地域愛の醸成

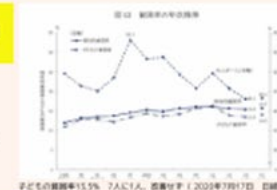
課題解決のための熊谷市への4つの提案

- 提案①熊谷市版子ども食堂フォーラムの開催
- 提案②全小学校区での同時子ども食堂の開催
- 提案③資金源としてのふるさと納税型クラウドファンディング導入
- 提案④地域愛の醸成のためのウェルビーイング指標の導入



理由①7人に1人の子どもが貧困状態

- ①お金がない（経済的貧困）
- ②チャンスがない（機会の貧困）
- ③つながりがない（関係性の貧困）
- ④自信を持ってない（自己肯定感の貧困）



理由②子ども食堂運営者へのインタビューと自校給食の担い手のショッキングな発言

熊谷市の養老エリアは、自校給食により、作り手と子供たちがコミュニケーションを取れる環境にあるが、その担い手より、「給食がない意味不明けに、げっそり痩せてくる児童がいる。その理由は、貧困により家に食べるものがないからだ。」とショッキングな発言があった。



理由③熊谷市民の地域愛を何で計測するか？指標がない

「熊谷には、何もない」と多くの熊谷市民が言う。しかし、熊谷市はRESASによる『地域経済循環マップ』でも市内経済の循環が顕著に出ている。また、ない市民活動はないといわれるほど、実は多種多様な市民活動が存在する。各種レポートからも、シビックプライドと幸福度の相関性は高いことが報告されているが、働く事と暮らすことが噛み合い、「何もない典型的な地方都市でありの風景」のようにずっと思われてきた熊谷が、時代とともに食の定義も変化し、ついに熊谷にその理想的なバランスがあると、市民が気づきさえすれば、その街に暮らす喜びは素直に違いない。地域愛を育むことによって、幸せ度は増す。熊谷市の多様性を数字として脱し出すには、国が提議するウェルビーイング指標が不可欠だ。また、今回提案の子ども食堂が増え、理由①の4つの貧困が少しでも解消すれば、地域愛は醸成されるはずだ。子どもへの投資が、その土地の未来をつくる。ウェルビーイング指標を用い、データによる継続的な計測を行いたい。

実現にいたる時間軸を含むプロセス

- 2022年
 - 12月 官民学連携 ウェルビーイング研究会（熊谷）設立（済）
- 2023年
 - 2月 ウェルビーイングカフェ@八木橋百貨店 オープン（決定済）
 - 3月 熊谷市子ども食堂ネット・ワークキックオフミーティング（主要関係者のみ）
=別提案のスクラムワークの活用
 - 4月 日本ウェルビーイング推進協議会とのキックオフミーティング
 - 6月 立教大学RSL科目『SOCIAL & PUBLIC』開講=リソースが補充される
 - 7月 熊谷市子ども食堂フォーラムの開催
- 2024年
 - 2月 熊谷市全小学校区子ども食堂の開催
 - 4月 ふるさと納税型クラウドファンディングの導入による資金調達
→継続的な全小学校区子ども食堂の開催



チーム名：帰ってきた
TOYOOKA FANS
自治体名：豊岡市

兵庫県豊岡市



豊岡市の課題

私達は「市立図書館施設における利用者数の減少」、「シーズン外における観光地の有効活用」を課題として掲げた。

課題① 課題② 解決アイデア
本×自然=???

A.五感で感じる自然内読書

図書館運営や町おこし協力隊が協力して、シーズン外の海、山、川などの場所に自然に触れ合いながら読書ができる本の空間を人とデジタルを活用して作る。

図書館にある本から一部観光地へ運ぶことで、利用された客や地元の関係者の人からの紹介、提案からその場でしか味わうことのできない空間が生まれ、観光の一部に生まれ変わる。



本がある空間から人とのつながりの場を作る

・アイデア賞

・発表 13:10~13:15(5分)

チーム名：Gゼミ『新潟
法律大学校下水道
広報ゼミ』
自治体名：新潟市



～高校新科目「総合的な探究の時間」授業カリキュラム提案～

【課題】下水道が市民から全く興味を持ってもらえない



若い世代ほど、下水道に関する意識が
低くなる傾向にある！ (国土交通省
「下水道に関する意識調査」より)

企画概要

高校生が小学生に下水道自由研究教室を企画・開催する総合探究授業



企画の流れ

	フェイズ1	フェイズ2	フェイズ3	フェイズ4	フェイズ5	フェイズ6
	導入授業	SDGs×下水道	下水道施設見学	企画立案	自由研究教室開催	振り返り
活動	新潟市下水道部の方より、「公民と協働」=市民と行政が主役となって地域課題解決に取り組むことの重要性。「下水道広報の必要性」=下水道の現状、施設の老朽化と下水道を守るための市民の理解促進の出前授業を行う。	新潟法律大学校Gゼミが、2世代の興味関心が高いSDGsと下水道の繋がりを説明する。 ↓ 下水道がサステイナブルな事であることを周知させる。	探究学習のプロセスの一部である体験活動として、新潟市中部下水道処理場で1日見学を行う。	新潟法律大学校Gゼミが一部である体験活動として、取り組みや行った実験内容を説明する。 ↓ 高校生が、これまで学んだ(フェイズ1～3)下水道の必要性を伝えるための実験・ミニ授業を考える。	夏休みの期間に、高校生が小学生に対して、親子参加型自由研究教室を開催する。	自己分析を行い、成長した点や反省点をまとめる。 ↓ 班ごとに発表 ↓ 校内で発表

・連携体制賞 ・発表 13:15～13:20(5分)



チーム名：宇部商業高等学校商業研究部

自治体名：宇部市

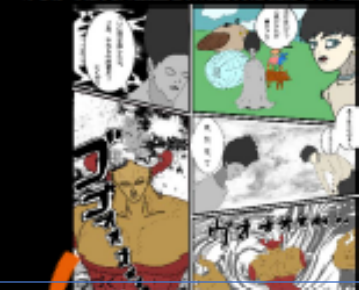
チャレンジオープンガバナンス 山口県宇部市 共創による「ひとが輝き 交差ひろがる わたしたちの宇部」

山口県宇部市文化遺産「彫刻」による地域活性化大構想

山口県立宇部商業高等学校 商業研究部による…
～リアル謎解きゲーム in ときわ公園 目覚めし彫刻たちの謎～
アイデアのポイント！



山口県宇部市は彫刻の街。半世紀以上続く歴史のなかで市内に設置された野外彫刻は200点程。



謎解きゲームのストーリーを制作！

- 【出典 ときわ公園活性化基本計画】
- 彫刻とリアル謎解きゲームを融合したイベントを実施してみた！
1. **PLAN** イベント企画の立案！
 2. **DO** 宇部市役所 ときわ公園課・文化振興課との交渉・連携！
 3. 宇部市と防府市の全小学校へチラシ 14,342 枚配布！
宇部市教育委員会・防府市教育委員会への協力要請
 4. 令和4年7月21日から1か月間イベント実施！
 5. **SEE** イベントクリア人数 563人 チラシ反応率 3.9%達成！
参加者からのアンケートより、様々な意見を洗い出しました。
 6. ステークホルダーへの結果報告と来年度への提案
宇部市役所 ときわ公園課・文化振興課 宇部市長にも提案

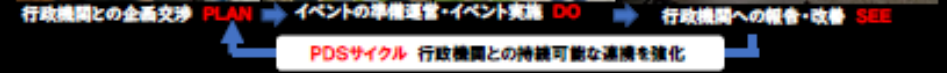


チラシを制作！
教育委員会との連携により、
小学校の児童へ配布！

行政機関との交渉・連携

7月21日イベントスタート！

たくさんの家族連れが
イベントを楽しみました！



参加者 563人！
チラシ反応率 3.9%！
(反応率は、スーパー特産品チラシで1%と言われています。)
リピートの可能性
まだまだ！タイミングが合えば
まだまだ！100%達成！

・ハーバード賞・発表 13:20～13:25(5分)



チーム名：ラジレジオン
自治体：千代田区

「エネルギーって難しい…、脱炭素って何？」
ラジオでエネルギーを学ぼう！

つながラジオ



学校・地域・世代を超えた
コミュニケーションラジオ



学校 × ラジオ × エネルギー × 地方

● 学生賞

● 発表 13:25～13:30(5分)

2. 地域アゴラパネルディスカッション 14時05分から15時 55分

- 地域アゴラの意義と実践デモクラシー—奥村 35分
- ★オープンガバメントの国際動向とこれからのデモクラシー
- ✓ 投票に行くだけがデモクラシーではありません
- ✓ 日々の活動の中に実践デモクラシーがあります
- ✓ COGは実践デモクラシーの成長を応援します
- ✓ 地域アゴラは実践デモクラシーを育むハイブリッドの土壌です
- (補)市民参加型デモクラシー: 広がる気候市民会議
- 意見交換: 地域アゴラが実践デモクラシーを支える(仮) 20分
- パネラー: 審査委員有志、COG参加市民・自治体有志
- (モデレーター)奥村裕一(COG事務局長)

3. 関連する話題 30分 (各15分,うち10分発表5分討議)

- 1. 日本における住民参加型まちづくり手法としてのオンラインプラットフォーム「Decidim」の活用実態報告 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 輿石彩花氏**
- 2. 哲学カフェの未来 藤田友子氏 (COG2016 アイデア賞・ハーバード賞受賞チーム「宮前子育て応援だん」リーダー)**

このまちをみんなで作
る COG!
アイデアから
実行へ!!